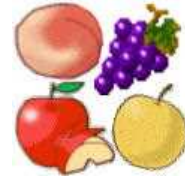




# 平成30年度 果樹情報 第3号

(平成30年4月26日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (4月中旬：果樹研究所)

4月3～4半旬の平均気温は、3半旬が11.5℃で平年より0.8℃高く、4半旬が12.8℃で平年より1.3℃高く経過しました。また、この期間の降水量は6.0mmで平年の19%でした。

## 2 発育状況 (果樹研究所4月23日現在)

- (1) ももの満開は、「あかつき」、「ゆうぞら」とも4月10日でそれぞれ平年より10日及び11日早くなりました。4月中旬における「せん孔細菌病」春型枝病斑の発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域とも平年より高い状況でした(平成30年4月20日付け病害虫発生予察情報注意報第1号(福島県病害虫防除所))。
- (2) なしの満開は、「幸水」が4月16日で平年より10日、「豊水」が4月12日で11日早くなりました。
- (3) りんごの満開は、「つがる」「ふじ」ともに4月22日で平年より9日早くなりました。
- (4) おうとう「佐藤錦」の満開は、4月19日で平年より6日早くなりました。
- (5) ぶどう「巨峰」の発芽は、4月9日で平年より10日、展葉は4月20日で平年より5日早くなりました。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月3日	4月14日	4月12日	4月10日	4月20日	4月17日
	ゆうぞら	4月3日	4月16日	4月14日	4月10日	4月21日	4月19日
なし	幸水	4月11日	4月21日	4月21日	4月16日	4月26日	4月26日
	豊水	4月8日	4月17日	4月17日	4月12日	4月23日	4月24日
りんご	つがる	4月15日	4月26日	4月26日	4月22日	5月1日	5月1日
	ふじ	4月17日	4月26日	4月27日	4月22日	5月1日	5月1日
おうとう	佐藤錦	4月10日	4月19日	4月22日	4月19日	4月25日	4月28日

注) 平年値は1986～2015年の平均値(オウトウは1994～2015年)。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月9日	4月19日	4月16日	4月20日	4月25日	4月25日

注) 平年値は1988～2015年の平均値。

### 3 栽培上の留意点

#### (1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、凍霜害を最も受けやすくなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

現在の生育は、最近の気温上昇に伴い、各樹種ともに平年より5～10日程度早く経過しています。福島地方気象台発表の1ヶ月予報によれば、気温が平年に比べ高く推移すると見込まれていますが、生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇する恐れがある場合には的確に防霜対策を実施しましょう。

(各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照)

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策(平成30年3月12日)」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/257524.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度にこまめに刈り込みましょう(地際部まで刈ると放射性物質をまきあげのおそれあり)。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう(乾燥条件は夜間の気温低下が著しいため)。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。特に、花粉が無いもしくは少ない品種においては、注意が必要です。

#### (2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数としましょう。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用します。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所(冷蔵庫が望ましい)に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぎましょう。

### 4 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病害

##### ア リンゴ褐斑病

本病の発生が多い場合には、落花直後にデランフロアブル 2,000倍を使用しましょう。

##### イ リンゴ黒星病

本病は開花期前後が重点防除時期に当たるため、落花直後にDMI剤のいずれか(県病虫害防除指針参照)を散布し被害防止に努めましょう。

##### ウ モモ灰星病

花腐れは果実への伝染源となるので、見つけ次第摘除し、適切に処分しましょう。

##### エ モモせん孔細菌病

4月中旬における春型枝病斑の発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域とも平年より高い状況にあるため(県病虫害防除所、平成30年4月20日付け病虫害予察情報注意報第1号)、注意が必要です。本病は、発生初期の密度抑制が重要であり、春型枝病斑は葉や果実への伝染源となるので定期的にはほ場を巡回し、見つけ次第せん除して適切に処分しましょう。また、落花10日後にせん孔細菌病防除剤を使用しましょう。

##### オ ナシ黒星病

伝染源である花そう基部病斑が見られる園では、病斑を見つけ次第必ず除去しましょう。また、開花後の薬剤防除は開花前の防除から散布間隔を10日以上あけずに効果の高いDMI剤(県病虫害防除指針参照)を十分量散布しましょう。

なお、開花前後の散布期間が2週間程度あいてしまった場合は、園内での発生状況に留意し、発病部位の除去と今後の防除を徹底しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第1世代の防除適期は4月20日頃であったと推測されます。初期密度を抑えるため、落花10日後の防除が未実施の場合は速やかに行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並みに推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月3半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予想されます。複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類越冬世代成虫の発生前と予想される5月1半旬頃までに設置しましょう。

ウ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月3半旬頃であったと推測されます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を使用しましょう。

エ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬成虫による被害は幼果の段階から発生する場合があります。山間部や山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（平成30年4月22日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	—	4月20日	5月8日	5月22日
平年並み	—	4月20日	5月12日	5月29日
2℃低い	—	4月20日	5月19日	6月6日

注) 演算方法は三角法。起算日：3月1日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>